

まのり

一巻
詞を名にせり

圖書館
三 甲 三
六 八
六 〇

十

寄贈

明治二十二年四月

源氏物語より十二支まである 卷ノ末詞ニオト十二成王ツテ後ト有景末美ナク西米ニ移ルフタツト多

女御以上至二位、づれのれ時なめぬ更衣あもささうひのり
三位、更衣女、官ノ名

雄略天皇七年永相重更衣、時一字ヲ讀メキハ添ヘ春メキ也メキ、女御更衣中ニコノ景ヲセタリ上臈ハ
雅媛上道女、すづれてもささめきもあきらめ、冷腹ト云ヌ衣ヲ同ニツカヌヤリニ
女御見女御始人、更衣ヨリ入内ヲ早クニエフヘ、

周礼後漢書見キ、えに器サレトス心、めそねもろおね、ほごそれより、更衣、強執奉公、よかも、めそねもろおね、ほごそれより、
自然、取参内セリ、下らうれ文む、うちい、てやす、あさふ、
近代女御、意、

女御代ト云テ今人、上臈ト云リ、のちやづふ、つけても、人のころ、さう、さう、
西カト思ハヌ、らう、を、お、つ、も、り、を、や、ほ、り、さ、む、い、も、あ、け、ら、く、
負、ム、シ、テ、ハ、ハ、負、ム、ハ、恨、負、ム、ハ、苦、キ、ト、ハ、

なり、ゆ、さ、も、れ、い、ほ、そ、げ、よ、さ、も、づ、ら、な、を、い、ぐ、あ、づ、あ、れ、ち、る、も、の、は、お、け、り、て、人、の、さ、う、
帝ノ行跡ハ何事モ未代ト記被ス

い、も、え、け、づ、う、を、め、さ、う、被、れ、た、め、に、い、ま、り、

同書

大長子トハ子公卿 殿上大納中納ヨリトシ 一字ヲ外様

めづるもてなりなりぐんだらめうへ人なまも

あひるめをそはめうへもまばれもく人のれを

なりもあうへもあうへもあうへもあうへもあうへも

ふれうへもあうへもあうへもあうへもあうへも

うへもあうへもあうへもあうへもあうへもあうへも

妃のたうへもあうへもあうへもあうへもあうへも

川うへもあうへもあうへもあうへもあうへもあうへも

たうへもあうへもあうへもあうへもあうへもあうへも

かきんハ夜半ノ 更衣族姓ヲナリ

ハシタノ様ハ様ニ 更衣ノ母ヲ言ハシ

ふりてあうへもあうへもあうへもあうへもあうへも

やうなうへもあうへもあうへもあうへもあうへも

急度トシタ

ともてあうへもあうへもあうへもあうへもあうへも

ふれうへもあうへもあうへもあうへもあうへも

あうへもあうへもあうへもあうへもあうへもあうへも

うへもあうへもあうへもあうへもあうへもあうへも

ふれうへもあうへもあうへもあうへもあうへも

あうへもあうへもあうへもあうへもあうへもあうへも

ふれうへもあうへもあうへもあうへもあうへも

あうへもあうへもあうへもあうへもあうへもあうへも

ふれうへもあうへもあうへもあうへもあうへも

あうへもあうへもあうへもあうへもあうへもあうへも

ふれうへもあうへもあうへもあうへもあうへも

あうへもあうへもあうへもあうへもあうへもあうへも

ふれうへもあうへもあうへもあうへもあうへも

ヨウロズハトスル
世俗ニルウニタラ
ト云ト曰

朱萑院ノ母 ハナニ
みこのめねハおほくうさぐり人よりさうさう有叔三諫
弘徽殿女侍 憲后昇内育ヲ朱萑院 ハナニ 氏 ハナニ
まよりあてやむとねさねさひなぐてなすぞ。
帝ノ ハナニ 六ヶ女思 ハナニ 乙ト草子 ハナニ 注釈

みるにあらなむもおりしをばいぬるこのれいそめを
 のもぞなをわづらうくむらうやひええを
 夕ける更衣心いねげとたのむさうてなう何にモ云々一ラ波ハ元有又云々
 しめふすをももあふ人とおほくづる吹毛未だは漢書文
 づもれうらうらうさばうそづうくうめ
 があひもぞとぬつねいなうらうつがうらうのう
 のれいづとすささめつひするさいれまう
 たりは人のれうらをばうあもげはとたり
 ともうらうのかりめにもうらううらう
 毎夜昇殿ラ云云友ハカレト云

五

1

守之



テ
か
ら
い
は
い
ぞ
も
突
や
ぶ
あ
う
う
い

さへうはふさあそてうるまじうかのさあれい
 多うはものなりなんともさうざれぬていさう
 のあふのさうはふさあそてうるまじう
 あふさあそてうるまじうさあれぬていさう
 つさださうさあれぬていさう
 空蟬ハカラリんうもナクさうつカ草ノ山煙々々々
 けうさあそてうるまじうさあれぬていさう
 モ五果テ成ト成ナシ時ニヨクノヤミザミ
 なされぬていさあそてうるまじう
 (三吉野、田面ノアモ一向ニ)
 さあそてうるまじうさあれぬていさう
 のさあれぬていさあそてうるまじう
 サハコト人々々々々々
 いさあそてうるまじうさあれぬていさう
 文家ノサシモラフカイタタニ
 (三三三) 内表
 ねはういあり三佐のさあそてうるまじう
 ちうへい 執使さ

柳

てぞれ
宣令せんきやうふむらんるるるるなりたるめれと
必吸納言ヒイキナク人太刀説ノ書ヒイキナク各ヲヨリ
聖廟ヒイキナクナトノ血廟ヒイキナクナリテ必納言ヒイキナク

だ、い、も、さ、ひ、な、り、め、う、あ、ふ、ら、ら、あ、う、あ、ね

さるれいまいひとささみのくおとさとく

せりなりきり是よりひてもふと人ぐね

うわいさうふゆるなぐれぞ

うらゝもいづもれづづるやすみみ

ぶらゝみなどいふぞおほいづるは

主トガサレ帝ノアコリ以ノカガシテラウアウエトノ毎度ノ日本記
ふれもてなりゆゑそすもろうそこのあし

今ぐはあれなまけ有り心と。うへうへのめ房めぼうを

とも^い意^え志^しのひあ^いりな^なくてそ^そと^とは^はる^るま^まあ^あり^りは

やとみしうらなく日比すそそ後のわさるもみ
毎墓のカイナキに

流るるの川

不慮ノ外ノトナシニ
シ玉ハサルト人

子ニナキテ午ニシカ
春酉ニヌレニ袖トハ

人ハイコトゾナキ詠
三我ハ懐ケキ秋ヲ知ル

学花物語

宮失至ヒテ悔何

思ふサレヌ由々シキ

女官入外ノ内殿

居モ父ノ外ト云

親
一
女
房

更衣之類

有二十之更衣室

ヨリ字に五重ハ

一、必書三才

夕暮れ けふと ねうも 月し づくと

四

御負

只今

武官

衛門

命婦

命婦ハ...

禁中ニ有内令...

私ノ妻...

其ハ外令...

尚内...

中ニ...

下ト...

女...

此...

万ノ...

勝...

7...

カ...

公...

モ...

本...

逐...

タ...

具...

サ...

更...

ニ...

ハ...

今...

サ...

ト...

来...

ニ...

公...

サ...

秋...

は...

イ...

キ...

人...

宿...

イ...

後...

おのろけゆきみの命ぬとつをい...

うつねの...

あそや...

いあそび...

う...

なりー...

は...

ひ...

つ...

て...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

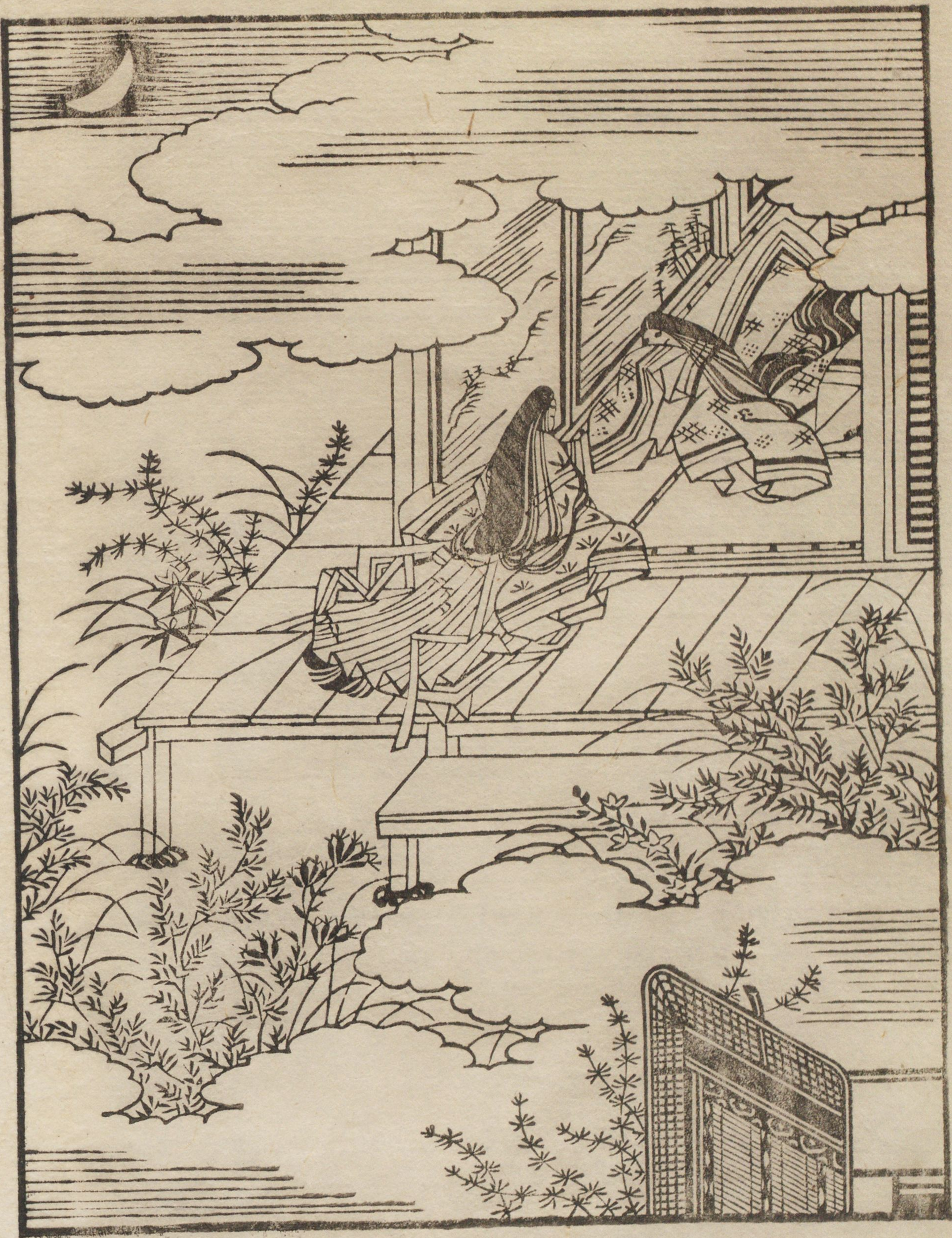
...

...

...

...

...



亦

三

令ぬ詞

まゆりていもどくさうさふもけらや

まゝい 令つヨリせん便

まはんと肉侍のまけのさうーたまひーと

令ぬ早下ノ詞

もれ思ひもへちめうけもげさういせ

まのびさうはくれさやためひておほ

是ヨリ勅言ヲ令つ侍

まゝつてさあゆまゆいゆめとのこたぎ

後定初裁

れさやうくおひまゆさうーもまじど

さうさうさうさうさうさうさうさう

もももひあさふさふさふさふさふさ

はまのりあなやわらわのいもあはつる

けささうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさう

内侍下者令つ
ヨリサキニ此上
母君へ系りてあ
帝へトミル
令つカヤメ
物次ノ詞

さうさうさうさう
出サカ思シヨリテ
涙シ流ス其心サ
カモサキヲ誰ニカ
サレハサキニ母君
キノ内成尼身ニ
系内ニ至ヘト
さうさうさう
此ハ此詞内モ泪
モエテ至ラス其ハ
心ヨリシモニヤト
さうさうさうさ
此ハ此詞内モ
サレテニ至スル

同

いひけあひん
あつニト思ヒヤリテ
更ニ衣ト諸氏ニ分
クニヌハラホウカサ
キヲ更衣ニナリ
ラヘテヨクイタ
ワリ玉（更衣）
形ント思ヒテ

いひけあひん
あつニト思ヒヤリテ
更ニ衣ト諸氏ニ分
クニヌハラホウカサ
キヲ更衣ニナリ
ラヘテヨクイタ
ワリ玉（更衣）
形ント思ヒテ

名所ニ云カケル

イカニ有トシラ
シジモ破ノ朽
シモハニエトモハ
カシ

禁中ノシタヘテク・ナニタヤ
宮城ノ
やふあつた

ワカ宮_ニて
小萩_ニて

禁中ノシタヘテク・ナニタヤ
宮城ノ
やふあつた

口にヌレハ常々ハ
 エタモウラニヌレ
 物ニソ有ケル

忘々善西三通スル討一家ニ老姥ノミカニナク羞容ノイテウツ
ゆゑに力ヲ入レバ、
糸思ハ

系思

カノ歌は消息
アリクニトヨム
有カヤウニ
ニキハ消息ノ
ハ便ニハル
口惜キトム

顔齡ト云時ハカク
子物ノシウル心カ

三門ノ血志ノ方
家ニ人デナキ
ハヤシカクニテ
ニハリ先ト

孫死ト思ト之ヲ師經ニ
 トケリルヲテウタイ且
 シヤコシ人ノソホニ
 ニテウレタルト思ヒ
 ナカレトナリ

のかゝるもなまげをせそまられもろくなりぬ
 とくらくらあうぢひくぢあつなとぬくいそめと
 れゆーくぶくぐくうーろとよんるんぬ
 ーらひ中くならんふーとやよーまへんぐ
 ーぢれゆいぐむとぶくーとぶくーはよう
 ーそゆーとやほまうまのほいーれうぐ
 まうーけらふふくけらふとらうーつと
 らひよめりつるをくのそねうーつとやす
 めーとあゆくなりうひゆよーうにぬちるやうに
 つあうくなりぬれ^龍ふりていつくなん
 ーさ^龍けい^龍さ^龍ーとよめくれちるれちうらな

今下へ
川をわ

あぢのぞうもあぢおそへまふなりと人ごころふ
 参更の和ハルニ
 更衣母の
 若宮ノカイニヤクノ人
 ともさへにいと涙内やうと物タはなまひて
 いふさうぐもてうのれ何りさぬなむおもひぞ
 カッウ
 ぞゆれどもよくとり指さんともばそこのうま

梅れどくまぐちふむのさひそつんも
 ひとふううぐべ。まひさそつてまうぐ。まうぐ。
 あえんひとじうめさうやひ実えのそ。すうく。
 ともえまうせそまうつりたまのめなりなり。命救。

島
 りもふあねもぞもせしつよにざりけるをいふれは
は嘆一各氏より
 りもふあねもぞもせしつよにざりけるをいふれは
女有老女九へし詩命氏
 りもふあねもぞもせしつよにざりけるをいふれは

ふぐりれあふ^{あうづ}み人さうくもめてれお^{あぐり}語もさせ
あ^{あう}ふり^ごげあけられんず^{ちう}も恨^{ぐん}哥^かれた^た魚

亭子像のりせめていせくはふりやめ
 やまゝ云トのりとももろろれいともじり
 すぢらぞ詩者シ朝タ言種トミテアヒ心スベキナリ
 余海

ろうとせんとはちの衣なりつるや無びやう
衣
 そうすけぬりちんずればいもうさゝも
衣
 ゆづるあぬもにひくもさうすみづらぢん
更衣母
 あゝふあせうべれりよりこそぞ
更衣
 草子ノ地
(此紙乱心書サミテミタリカハシキト)
 うへそまげいなるやうなうはさうりうり

と心もあざりけずほぞんゆすべし



春宮

五十七

いふうーもふじとおぼしきづもれぬふふふ

えぬびあへさせむづねんドドグー年月

のふふふふふふふふふふふふふふふ

れて時のまふおぼつふふふふふふふふ

いふふふふふふふふふふふふふふふ

お大納言のゆいふふふふふふふふふふ

くもれふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

づふふふふふふふふふふふふふふふ

でも何りなんふふふふふふふふふふふ

春宮ニシテカダリ
思シタルニカク先ダリ
月日ハるハモノト
後ニシテ思ヒ

故大納言志リ母君
キエシテ今令ル
サエノ申ウツメ

春宮ノ成長シ玉ハ
春宮ニシテカダリ

女中

母君

春宮

母君

六

所ヨリ初ニク

孤燈挑尽不成眠

丑刻

亥一刻尤近衛
官人初養時
四刻丑一刻右近

衛宿申支至卯

一刻內里亥一刻
養宿簡限力半夜半

也 内醫所卜云

子に物ヲ受テモ此ノ
思ヒニカケヤ

又安玄弟アサ岐ヲ
コタリハ貴妃ト云フ

冥ニハヒトク
祈フ書

朝餉アサカシ二面也

俗膳大座子ハ
殿上人ハ已之何レ

朝餉二面ヤ
アサカシイハ女房ノ
倍膳大座子ハ
殿上人ハイロシ之何レ
クモラシジモ入レサル

大床子所トテ有
桃ヲニウ立テ凡膳

スユルハ帝ニ
参リ供進ヤ

いふふれふ

一玉ハ瓶道モロキ
二玉ワズセノ法カ

シセ思ふタテ
アリ

玄宗ハ祿山ノ乱ヲ
則位シテ肅宗ニ

佐五下佐五去
五ハズラシノ四ク

仁ログク我ハシツカ
アミテルヤヒガメル

神シハト、
ニガカ神ハ

天照太神

This image shows a blank, aged, cream-colored page, likely an endpaper or flyleaf of a book. The paper has a slightly textured appearance with some faint smudges and discoloration, characteristic of old paper. There is no text or other markings on the page.

抽壺

三

[illegible]

寛平遣誠可外著人
 必可召見者在藤原
 見召玉可出對
 必可召見者
 三ツキ時イハ依
 仕テ召三ツキ由
 三ツキ必可召見
 祿食全ク玄蕃ス
 訓ニ法師テラウ
 ワカトヨリ玄僧
 著書客ソウニト
 著書百河四ヨリ
 素朝已ニ著書客
 此客ニワカオレ

ほかに九嬪嬌をえとよ
 心耻ま故えこ
 天のうらわさふれぐもんとうもれそて
 一とわのひも雲井をひくすべふいひり
 けバくくさうもそそなりめふひとのれ
 高麗人
 まのうらわさふれぐもんとうもれそて
 一とわのひも雲井をひくすべふいひり
 けバくくさうもそそなりめふひとのれ
 高麗人
 まのうらわさふれぐもんとうもれそて
 一とわのひも雲井をひくすべふいひり
 けバくくさうもそそなりめふひとのれ
 高麗人

四ノ異コウ人素朝時ハ
 通リト云ワカガ有テ
 志リ侍ル故
 茶朱崔ニ
 有下ナ
 今四塚ト
 云不云



五

卷之六

150

ユ
ツ
シ
ツ
シ

養上十六郎より廿七の年とシタレ有
始終にフオカヨ玉フ

原氏十二

墓上心
似合カレ

丸大
丸白

丸大
丸白

子

牙花院

الحمد لله

الحمد لله

菱上九母

菱上九母

九六

中將と云ふ

015497

大寺匠ノ原ヲ凡カシメユトツニ

炎上四宮下事人

苑人卜四宮卜事

源氏心

源氏心

源氏心

卷上

卷上

葵上

葵上

カシマキ玉ノ四君
友長ノ四ノ娘ナリ
惡后ノ妹
大匠ト申ハ惡シ
ケレ共人ノ女ナリ
智^{ムコ}ミレテ四ノ君ニ
合ス

三

[illegible]

相壺 珠景金ト云
あけいさをねに
さうーまをばさむ
表
の御

二条院 といふ
その家はトエリスル役人木五郎内通トアリ

二
とある修理院と三とある宣旨と

なうあふまふさふさふさ

池心へ^ソ居る中へ

源氏心

すまゝやとのゑだげううおぬーわろひ

光君ト云名双ノ此
イツレノ成時ニカト
タイメ^{ニデ}止メタル四ノ

つなぐそよりけりそいふて

先

